



青年技術士として役割を思う

(社)日本技術士会北海道支部 青年技術士交流委員会 委員長
技術士（建設部門）

樋 詰 透

民主党政権下になって行われた行政刷新会議による「事業仕分け」。

科学技術関連予算にも大きく切り込み、ニュース等で大きく取り上げられたことは記憶に新しい。

科学技術をよりどころとする我々技術士にとってだけでなく、今後、科学技術部門を志す(であろう)若年層への影響は図りしれないものになる、と憂慮している。

さて、青年技術士交流委員会では、今期でついに21年目を迎えた。(20周年記念会の詳細については、本書の活動レポートを参照されたい。)

幹事の入れ替わりを繰り返したとはいえ、20年とは相当な期間続いたと思う。

20年目を契機に、という訳ではないが、当委員会では、昨年度から、支部会員間の技術研鑽と交流活動を中心とした研究会だけでなく、後進育成のための活動も行っている。

後進育成といっても、相手は、職場での後輩や就職した若手ではなく、今後、技術士（になる可能性のある）の卵達＝学生である。当委員会が、昨今の子供達の理科離れや技術系教育機関の卒業者が無関係の分野に就職していく現状を憂いて、取り組みはじめた矢先、先の科学技術に対する「事業仕分け」とはなんたる皮肉か。

いずれにせよ、当委員会では、青年技術士として、後進育成のためにできることを考えた。当委員会の幹事＝青年技術士は、一定要件を満たす例外を除き基本的に45歳以下の支部会員もしくは協賛会員である。最も油が乗った第一線で働く年代であり、皆、

多忙である。

しかし、当委員会の熱意ある幹事達が動いた。多忙な合間を縫って会議を重ね、学生達に、技術系業務の楽しさや魅力を伝えることを模索した。

そうして、「技術者の仕事の面白さを伝えるに行こう！」は、昨年10月15日、北海学園大工学部の学生を皮切りに始まった。その後、2月には旭川工業高等専門学校へと続く。

去る11月11日には、今年度はじめての「技術者の仕事の面白さを伝えるに行こう！」を昨年度に引き続き、北海学園大工学部の学生を相手に実施した。まだまだ試行錯誤が続いてはいるが、2年目となり、運営にもこなれてきた。講義中の学生達の姿勢、終了後の顔つきなどみると、少なからず、手応えを感じている。

理科離れ、科学技術分野離れが憂慮されている中で行われた科学技術分野に対する「事業仕分け」のイメージダウンが、我々技術士の卵である学生達や、さらには高校生以下の子供達の科学技術志向を歪曲してしまうことを懸念している。

こうした大きな時代の潮流の中で、当委員会として、できることは限られている。

しかし、今後も当委員会の若さ（とは言っても私ももうすぐ青年技術士を卒業ですが…）を武器に、地道でも科学技術の発展のための取り組んでいきたいと考えている。

共感していただける志のある若手技術士、技術士補の諸君、是非、委員会幹事になって、是非、一緒に活動しましょう！